



報道で紹介された美瑛高校 02

◆令和7年5月14日(R7.5.17 びえい新聞)

今年度の薬物乱用防止教室は旭川市立大学准教授の山田直行先生による講演を実施しました。アメリカでの「フェンタニル」の恐ろしさは特に印象的でした。

旭川市立大学の山田准教授が講義 美瑛高校「薬物乱用防止教室」

自分を守るために正しい知識を習得。美瑛高校で5月14日、旭川市立大学保健福祉学部保健看護学科の山田直行准教授を講師に招いた「薬物乱用防止教室」が開かれた。薬物による健康被害への理解を深めると共に、事件に巻き込まれないよう自己の意思決定力・行動選択力を高めることを目的としたもので、全生徒が聴講。山田准教授は「薬物中毒の影響」と題し、①精神疾患と看護、②中毒と依存症、③薬物の後遺症の事例、④違法薬物への対応策の4項目について解説。データなども交えながら薬物



依存の危険性を説いた。精神疾患については「メカニズムがよく分かっておらず完治が難しいのが現状」としながらも、「薬物など中毒・依存症がある精神疾患は、依存物質を使わない、依存行為をしないことで予防ができる」と説明。薬物・アルコール・タ

バコなどの物質依存と、パチンコやゲーム、ギャンブルなどの行為依存をあげ、事例も添えながら禁断症状の状態などを話した。そして「違法薬物には手を出さない、興味を持つて近づかない。対策はこれしかない。緊急性があるときは、精神科救急ならすぐに診察してくれる」とアドバイス。①止めた時に褒める・感謝する、②注意はシンプルに具体的ににする、③患者会・家族会の参加といった正しいサポートを伝えた。

講義を終えた山田准教授に、生徒を代表して生徒会の千葉侑真会長から「声をかけ一人でも幸せにできるような私たちも生きていこうと思います」と感謝の言葉が贈られた。